

府中市生涯学習審議会（平成２７年度第２回）会議録

１ 日 時 平成２７年５月２８日（木）午後３時～５時

２ 場 所 府中駅北第２庁舎４階 会議室

３ 出 席 者（敬称略）

（１）委員１４名

荒金恵一委員、大谷久知委員、奥野英城委員、木内直美委員、小島茂委員、
相良恵子委員、鈴木映子委員、関口美礼委員、武野純子委員、寺谷弘壬委員、
長畑誠委員、中村洋子委員、新島香委員、三宅昭委員、
※鶴田知佳子委員は欠席。

（２）職員６名

浅沼教育長、後藤文化スポーツ部長、矢ヶ崎生涯学習スポーツ課長、
宮崎生涯学習スポーツ課長補佐、目黒学習推進係長、山崎事務職員

４ 開 会 副会長の司会により進行。
委員出席数１４名で会議が有効に成立と報告（定足数８名）

５ 教育長挨拶 教育長より挨拶。

６ 諮 問 伝 達 諮問内容
（１）地域の教育力を活用した家庭教育の支援のあり方
（２）活動を支援すべき社会教育関係団体の定義及び当該団体に
行う支援のあり方
教育長が諮問を読み上げ、会長に渡す。
（教育長、文化スポーツ部長退席）

７ 前回欠席の委員自己紹介

８ 報告事項

（１）配布資料の確認

- ①第７期府中市生涯学習審議会諮問事項について（諮問）の写し
- ②第７期府中市生涯学習審議会委員名簿

- ③平成27年度第1回会議録（案）
- ④教育に関する法体系
- ⑤家庭教育支援基盤形成事業補助金の活用について
- ⑥文部科学省の推奨事例
- ⑦社会教育関係団体について（支援一覧等）

（2）前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

（3）東京都市町村社会教育委員連絡協議会 定期総会の報告

4月18日（土）午後2時～ 秋川キララホール（あきる野市）

（委員） 定期総会はあきる野市、秋川キララホールで開催された。前回承認された社会教育委員の方は初めてだったので、参加したのは寺谷会長、三宅副会長、設楽前委員、山内前委員と事務局3名。

（委員） もちまわりで、あきる野市で開催された。前委員を含め4名が表彰されました。4名とも6年間の委員を務めたということで表彰された

（委員） 開催は持ち回りで今回はあきる野市、キララホールで開催。連絡協議会の規定により、前委員を含め4名が表彰された。

定期総会の内容は定期総会の内容は平成26年度の事業決算報告、27年度の事業計画が審議された。平成27年度のテーマは「学び、行動する市民が創造する循環型の地域学習社会を目指して」が決定された。このテーマにより1～5ブロックがそれぞれ活動を行う。第5ブロックの担当市は狛江市。全体の交流大会は27年度12月5日、西東京市保谷こもれびホールにて開催予定。内容は統一テーマに基づいたパネルディスカッションを実施すること。

今回の定期総会後に開催された講演の内容について次のように報告があった。

講 師 井上健氏（東京都市大学教授）

テーマ 「地域社会に出会いと学びを作り出す一コミュニティスクールの活動を手がかりに」

世田谷区給田小学校学校運営委員長としての活動から、ビジョンは「開かれた学校づくり、地域とともに子供を育てる参加から参画へ」を基に地域の皆さんとともに作り上げる活動が有益である。

まとめとしては、学校運営の役割ということは保護者と一緒に行動し話し合うことが一番良い方法であると実感した。（月刊社会教育から一部を引用した資料配布）「月刊社会教育」という冊子を参考にして他の地域情報も参考にしながら活動に生かして欲しいとのことであった。

（４）諮問事項について

教育委員会の制度改正について及び諮問事項について配布資料に基づき事務局より説明があった後、以下のとおり意見交換が行われた。

（会 長） 教育長から頂いた諮問事項で、家庭教育や社会教育関係団体の定義や支援など、これまでとニュアンスが異なると思われた方もいらっしゃると思うが、今年から教育長と教育委員長が統一され、生涯教育・生涯学習もコミットして見守っていくということで、こういう諮問がなされたと思う。最初は、教育委員会があって、その中から教育委員長が選ばれ、教育が中立的でないといけないと言われていた時代に、教育長と教育委員長は別人であったが、今年から統一された。したがって、委員の皆様も教育長を支えて、幅広い範囲の答申をしていただくようお願いしたい。

（委 員） 教育委員会の制度改正について、浅沼さんは、教育委員長と教育長のどちらが正式名称なのか。

（事務局） 教育長が正式。

（委 員） 教育委員会制度はそれでは形骸化してしまうのではないですか。合議制の機関だと教育委員長のほうが決定権者のように思うが。

（事務局） 統一された名称が教育長であり、決定は従来どおり教育委員会の名において行うし、合議制の執行機関であることに変更はないので、形骸化につながるということはないと考えている。

（委 員） 家庭教育の問題と子育て支援。府中市では組織も変え、子ども家庭部をつくっているが関係があるのか。また、子育て支援のほうは、新しい審議会なり委員会をつくっているはずだが、それと同じことをここでもやるのか。

（事務局） 子育て支援は、所管官庁が厚生労働省で福祉の一環と捉えていただきたい。生涯学習は文部科学省が所管する分野なので、あくまでも教育や学習である。保護者の知識や学習、メンタル面をサポートできることがあれば、そういうことを考えていくと考えていただければよい。ただ放課後子ども教室のよう

に福祉と生涯学習とに重複する分野があるが、重複する分野についてのご提言でも問題ない。

(委員) 子育て支援事業について、厚生労働省を中心に全国的に進められている。横浜市でも NPO が積極的に、子育てで孤立しがちなお母さんが地域で集まれる場を作って、子どもを預けながらお母さんたちも少し話をしましょうという活動が出てきている。この内容は、家庭教育にかなり近いと思う。この話をしていくに当たっては、府中市の子育て支援策としてどのような施策があって、どんなふうに動いているのか、情報が欲しい。

(委員) 諮問の中身が非常に難しい。議論のイメージがわからない。ここで言っているのは、教育であって、子育ては生活支援とのことだが、ここでも同じで、子どもが育つための支援である。その辺の差がどういうふうにあるのか、文面からはとらえきれない。市の担当はどのようなイメージを持っているのか。

(委員) 諮問(1)の「地域の教育力を活用した家庭教育の支援のあり方」地域の教育力という文言について、事務局はどのように解釈しているのか。また、法体系の説明の部分で、補助金の対象事業をみても、学校教育と不可分な関係が相当ある。社会教育よりも、学校教育分野で考える必要がある。加えて、地域の教育力の定義を説明いただきたい。

(事務局) 地域の教育力という文言は、府中市教育委員会は以前より使用しており、具体的には、地域にいる人材・企業・団体をすべて資源とみなして、その方々を教育に取り組んでいくことによって、学校・教員以外の能力を活用していくというもの。具体的には、東芝ラグビー部が近隣の小学校に出向いたり、サントリー工場に小中学生が見学に行くなど、分かりやすい資源もあるが、まだ発掘できていない人材を探していきたい。社教団体の講師や、生涯学習サポーター制度などを活用していくというのが、これまでの地域の教育力でした。定義としては、地域にある教育に取り込めるものはなんでも活用していくという考え方でよいのでは。

学校教育で考えるべきというご指摘もごもっとも。教育委員会指導室、児童青少年課、当課でどのようにやるのかということで話し合いはしているが、結論はでていない。

(委員) 地域の教育力とは、従来からある PTA 連合会、各文化センターなど、これまでも使われてきた組織であるという印象。また、組織横断的なアプローチをしないと、諮問事項に対する答えは出てきづらいと思う。

(事務局) 生涯学習審議会とは、教育委員会の諮問に応じて、調査・審議するだけでなく、教育委員会に建議することができると条例にも記載がある。例えば、

先ほど委員から指摘のあった組織横断的にする必要があるといったものを諮問に沿ったかたちで、審議していただき、縦割りを乗り越えた横断的な組織体制を作る必要があるという内容の答申でもありだと思う。また、言葉の定義がわからない、他部署でどういった施策をしているのか知りたいということは、次回の審議会までに資料を事務局で用意したい。

(委員) 府中市では地域子育て支援事業、子育て広場事業というのがあるようだ。保育の部署の事業だと思うが、親にとっては同じことである。最終的にどういう提言になるか分からないが、社会教育の中での今現在、今までやってきた家庭教育支援がどういうものがあるのか、子育て支援という形で行われている府中市の事業がどうなっているのか、資料でもらえるとありがたい。また、実際に見てみたい。今のお母さん・お父さんがどんな悩みを抱えているのか知ることができたら良い。

(委員) いままで議論してきたもののイメージの転換で、最初は高齢化に重点を置いて、会社を辞めたあと、特に男性は地域と結びつかないということで、そういう能力を生かして、地域に貢献してもらったら、地域の活性化にもなる。特に団塊の世代がどっと出てきたときに、その能力を活かす意味で、学び返しという言葉があった。

私のイメージでは家庭教育と学校教育があって、お互いに責任をなすり合いして、一方では道德教育も必要だ、一方では受験教育も必要だということを行っている中、社会教育は多少無関心な観衆でして、その二つがどうやっているのか、見て観察しているようなイメージだった。その社会教育の中でできることは何かと考えていた。今日いただいた諮問では、この審議会は教育委員会の下部組織となって、できるだけ能力を発揮してこの三つをうまく連携できるようにやってほしいということだと思う。

学校教育だと、かまってほしくない分野だってあるし、家庭教育でも地域の能力のある人にあまりかまってほしくない部分だってあるだろう。

(委員) 市の子ども家庭部でやっている子育てひろばのほうは、保育園に通っている子どもだけでなく、地域で子育てに悩む親御さんが土曜日でも日曜日でも集まってきてそこで親御さん同士の話もあるし、園の保健師がお話をしたり保育士が指導したりというような地域との連絡をかなりする。それと子ども園設置の検討の中で教育面の課題がでている。いまでは小学校と子ども園や保育園等との連携が大切。就学直前の子どもの情報を交換するなどの連携をしなければならない。

(委員) 非常に大きなテーマで、難しい。思いついたのは、各学校 PTA、PTA 連合

会がそれぞれ家庭教育学級をやっていて、保護者が自ら学んでいこうという姿勢で毎年テーマを決めたり、講師を選定している。地元のお囃子を体験させてもらったり、消防団の人が子どもたちにいろいろ教えてくれるのも地域の力だと思う。そこから、家庭へどう入り込むかというのはイメージしにくい。

(委員) 家庭教育というのを考える時に、どの段階でどういうことをしたらいいのかと感ずるのは、中学校になってある程度子どもが出来上がってから親も子どもも変わることは結構大変なことで、それよりは幼児の時期から小学校高学年にいくまでにどのくらい親も子も成長できるかが大事。子どもは、お米作り体験や多摩川に近い学校ではがさがさ体験など、地域の方の力を借りながらいろんな勉強をさせてもらっているが、親がどれだけ勉強しているかというところが重要。地域の資源を使って、子ども達は学ばせてもらっているが、親が勉強できる機会がより一層あればよい。PTA でやっている家庭教育学級だとその年の担当者の好みが強くてしてしまう。講習会に近い内容と、趣味に傾きがち。子育てに直結するような、例えば靴の選び方など親として知っておきたい知識を子どもが小さいうちに学べる機会が多いほうが良い。

(委員) 家庭教育というよりは、親子で一緒に何かに参加するという形で、オーケストラのほうでは未就学児も一緒に聞いてもらって、小さいうちからクラシックに触れてもらう。親にとっては子どもが小さいからとあきらめていたのを、久しぶりに行ってみたら子どもが楽しそうに踊っているのを見ることができたなど、親子一緒にできる活動というものも家庭教育の一つではないか。伝統芸能を子ども達に教え、小さい頃から触れてもらうことも良いのではないか。

(委員) 家庭教育といっても、お父さんもお母さんもお仕事をなさっていて、子どもの面倒が見られない家庭が多いのではないだろうか。朝、ランドセルも持たずに登校する子どもがいて、お母さんが子どもたちが学校に行くまで見守ってあげられない。それを学校に押し付けている印象がある。私は、子どもが帰ってきたときには、お帰りなさい、今日はどうだったという会話が家庭で子どもを育てる第一歩だと思っていたので、今のお母さん方はどこまでそのようなことを考えて、どのようにお仕事をなさっているのか聞いてみたいと思う程の状況ではないかと思う。

民生委員で、学校との年1回の連絡会があるが、学校から見守ってほしいとの要請があり、遠くから見守っているがどこまで入り込んでよいか難しく、元気で通っていますという報告をあげるにとどまっている。

(委員) 両親が働いている家庭は、地域と縁が薄い方も多いが、土日や休日しか時間が取れず、買い物や子どもとふれあうのが精一杯で、他のことに時間を割けない状態だからで、地域に参加したくないというわけではない。府中の歴史や地理的背景などを知りたいと考えている。子どもは学校で地域のことを学んできて親に教えてくれるが、地域について知ることができる講座などが土日や夜に開講されていれば、働いている人でも参加できて良いと思う。

学校の校外委員会で、クラスや学年という単位ではなく町内に住む人という区切りで参加する地区集会のテーマ決めをしたが、あまりアイデアが出なかった。地元の町内会長さんなどがいらして「ここは暗い、ここは子どもに何かあったら来てくれていい」など、地域のことを教えてくれたらよいと思う。そうした父母の集まりなどに出前講座をしてくれることなどが「地域の教育力」の活用だと思うので、そうした連携ができると良い。こういう方がいる、いい先生がいるなど紹介してくれる仕組みがあれば。今そういうものがあるとしても、情報が届いていないので、まずは仕組みづくり、情報の周知が先なのではないか。

(委員) 自主グループをやっている方達は地域に根差した方達。自主グループは地域の方達の集まりでもあるから、長く趣味や関心を持っていることを話し合われていて、発表会なども相当レベルの高いものを持っている。そういう人達たちを巻き込んでいく形も取れるのではないかなと思う。学び返しの話があったが、自主グループで自分たちが学び向上するだけでなく、地域・地域の家庭に還元し、大きな意味での社会参加ができて、お年を召した方でも充実した生活を送れると思う。

事務局へ質問で、資料5の府中市の取り組みは、ほぼこれまでの事業に補助金を充てるということで良いか。

(事務局) そのとおりです。

(委員) 生涯学習というのは府中市に住む全体の人達の生きがいや意識の向上だとかさまざまなことに対する学習ととらえていた。今日の話だと、学校教育や家庭教育についてのことが、よく話し合われている。学校教育についてはよく分からないが、食べ物と心と体の関係について、親の食べ物に対する関心が低いと思う。私も講座を開く機会があるが、当たり前のように使っていた食材を初めて見た、初めて口にしたという方も多い。人間のベースをつくることをきちんとやって行かなければならないと考える。それには、府中市にも医師・栄養士・管理栄養士など食に関する知識を持つ方がたくさんいると思うので、そういう力を活用して、いろいろなことを受入れられる心と体

をつくることも大事なテーマではないかと考える。

(委員) 生涯学習センターでそういったテーマで講座をしてもらうことも可能だろう。

(委員) 地域の教育力ということで、地域の人材・企業がすべて資源ということだが、まず使える資源は何があるのか洗い出しが必要ではないかと思った。自主グループの方でも知識があったり、食に関する内容についてもできる人がいるのではないかというお話だったので、事務局にはどんな資源があるのか教えてもらいたい。また、委員の皆さんのお話も聞いてみたい。子育てや教育に関する悩みがあった時、まず専門機関に相談する人は少数で、最初は身近な人に相談すると思う。働いていると、子どものことで話ができる場がないと思う。例えば、中学生以上のお子さんを持つお母さんが気軽に集まれる場を年齢横断的に作れると良いと思う。

9 審議事項

(1) 答申の作成について

事務局の諮問事項についての説明が多かったため、次回以降に審議することとなった。

(2) 今後の開催日程について

事務局より、開催日程について年間予定案の提示があった。会長が各委員に意見を求めたところ、年間を通して木曜日は都合がつかないなど意見があったため、次回日程を7月30日(木)に仮置きしたうえで、事務局で再調整し、改めて連絡することとなった。

以上